

【主題名】 生きることのすばらしさを感じて 内容項目 「D-(22) よりよく生きる喜び」

【教材名】 花に寄せて (東京書籍 新しい道徳1)

<あらすじ> 肩から下の全ての自由を失った主人公が、口に筆をくわえて絵を描き始める。ひっそりとやるはずの展覧会に多くの人がおとずれ、主人公の作品が人々に感動を与える。

【ねらい】

- 内容項目の理解
よりよく生きる喜びという道徳的価値について指導する。
- 児童生徒の実態把握
困難なことに直面したときに、「どうせできない」「やっても無駄だ」などとすぐに諦め、弱い自分に負けてしまう姿が見られる。

本時のねらいを設定する

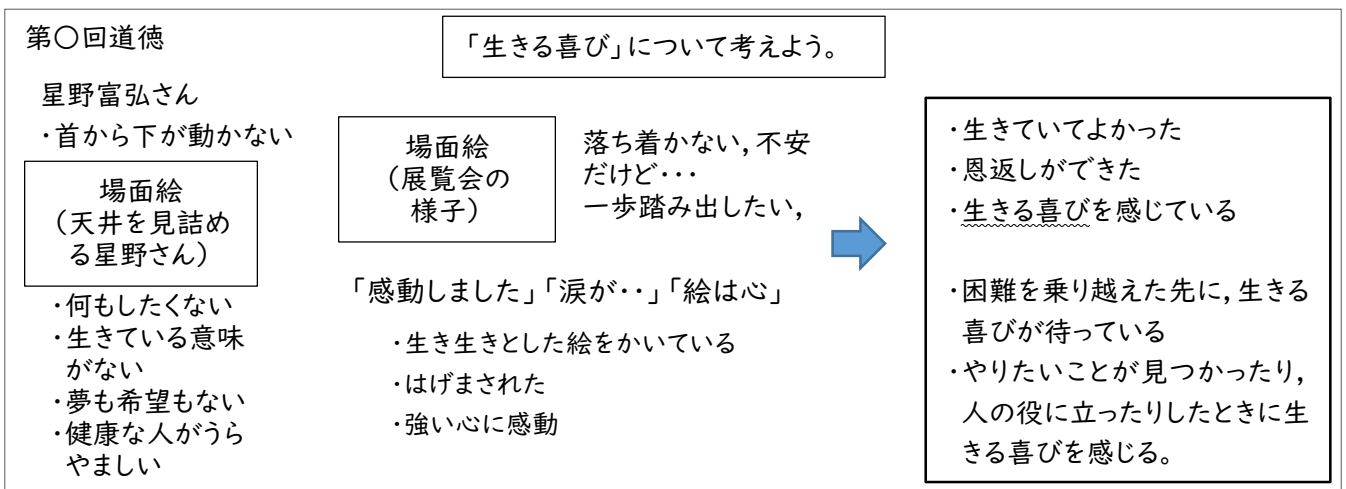
判断力 心情 実践意欲 態度

困難を乗り越え、絵をかき続ける主人公の生き方に共感させることを通して、人間としての強さや誇りを持ってよりよく生きようとする道徳的心情を育てる。

【学習指導過程】

段階	学習活動 ○主な発問 (◎中心発問)	考え議論する道徳ポイント集
導入	1 教材の内容に興味や関心を持たせる。 ・ 星野富弘さんに関する写真や資料を提示する。 2 課題をつかむ。 「生きる喜び」について考えよう。	導入の工夫
展開	3 範読を聞き、主人公の心情を捉える。 ○ 星野さんは、どのような気持ちで、病院の天井だけを見詰めていたのでしょうか。 ○ 展覧会の日の朝、星野さんは、どのような気持ちだったのでしょうか。 4 道徳的価値について多面的・多角的に考える。 ○ 星野さんの作品を見た人々が、涙を流して感動するのはなぜでしょうか。 ◎ 星野さんは、自分の人生を振り返り、どのように考えていると思いますか。	発問づくり 多面的・多角的
終末	5 自己の生き方について考える。 ○ 「生きる喜び」について考えたこと、これからの生活で生かしていきたいと思うことを、今日の授業で学んだことを含めて書きましょう。 6 教師の説話を聞く。	終末の工夫

【板書計画】



【評価】

よりよく生きることについて、自我関与中心の学習を通して、多面的・多角的に考えようとしていたか。